



学校教育目標 進んで学ぶ子 仲良くできる子 たくましい子
児童数 男子493名 女子475名 計968名

TEL (048)222-4383

FAX (048)222-9388

㊦っかりと聞き・㊦くわく未来を語り・㊦すんで学び・㊦れにも仲良くできる しわすだっ子



輝いた挑戦 ～ 金色の抱擁 ～

校長 石井 宏明

誰も予想していなかった超大技に挑み、金メダリスト以上の称賛に包まれた光景。そう、北京冬季五輪日本代表の岩渕麗楽（いわぶち れいら）選手(20)です。先月15日、スノーボード女子ビッグエアー決勝。2回目を終えて4位の岩渕選手は、逆転を賭けた3回目。女子初の超大技「フロントサイド・トリプルアンダーフリップ」に挑戦した。両足で着地したかに見えたが、弾みで尻もちをついてしまった。勇気ある挑戦。「こんな勇気、私には到底出せないな。」若干20歳のアスリートの、この五輪という大舞台での挑戦に、私は心が震えるとともに、畏敬の念を覚えました。感動のシーンはまだ終わりではありませんでした。先に終えた選手が次々と岩渕選手に駆け寄ったのです。米国、カナダら総勢7人。次々と抱き合い、岩渕選手を称賛したのでした。正に金色に輝く抱擁シーン。さらに「たとえ、私の順位が下がっても着地してほしかった」（金メダリストのガサー選手）「歴史的なものをライブで見て興奮した。誰も成し遂げていない技で超スペシャル。いずれ成功することを祈っている」（銀メダリストのサドフスキシノット選手）その技の価値、挑戦した勇気を誰よりも知る金、銀メダリストの言葉は、私たち素人では計り知ることのできないほど重いものだと感じ、思わずテレビの前で拍手しておりました。「これぞ、スポーツの素晴らしさ」「こんな素敵な光景、しわすだの校庭や体育館でも見たいなあ」「いや、体育だけではなく教室の中でだって、しわすだっ子たちは挑戦している。ともに学ぶ仲間の挑戦に対する称賛のまなざしや拍手は、毎日、どの教室でも見られるではないか」実は岩渕選手、16歳で出場した前回の平昌五輪にも同種目で僅差で4位となり、悔し涙を流す一方で、達成感もあったそうです。しかし、彼女の父親に「泣くほど努力していないよね？」と指摘され、打ちのめされ、その後の4年間は、それまでサボりがちだったトレーニングや苦手な技にも本格的に取り組み、恐怖心を振り払い、地道に取り組んだそうです。「4年前と順位を変えることができなくて、本当に悔しくて、最後に決めきれない自分にもがっかりしています。でも最後、チャレンジできてよかったです。」「競っていた選手が、こんなに一緒に喜んでもらえて、すごくよかった」と岩渕選手。いえいえ、メダルには届かなくとも、その挑戦、その勇気は世界の人々の心に届いたと思いますよ。少なくとも私の心には。

他にも多くのことを五輪から学びました。カーリング女子の仲間とのコミュニケーションや自分の役割を一生懸命果たそうとする姿や「コンシード（許す・譲る）」という概念。

日本では、「降参」「負けを認める」「ギブアップ」ということになりますが、「コンシード」は「相手チームの勝利を認める」相手に握手を求め、ゲームが終了する。相手を認め、称賛するのです。自他ともに全力を尽くした結果に対し、相手を尊敬するのですね。素晴らしい概念です。

さあ、本年度も残すところ1月となりました。（授業日は18日：6年生は16日）しわすだっ子には、最後の最後まで自分のよさに磨きをかけるとともに、苦手なことから逃げずに向き合ってほしいと願っております。

それが、一人一人にとっての「輝く挑戦」ですから。